

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

## 長柄山自然農園だより

山本由希彦

新型コロナ対策について連日報道が続いているが、ウィルスに対する過剰反応というか風評被害は、養鶏においてはかれこれ 15 年前くらいから、鳥インフルエンザウィルスの発見という形で、毎年なんとも言えないイヤな気持ちで秋から冬を過ごしてきた。初めて発見された養鶏場では、マスコミのしつような責任追及と取材で、農場の社長夫妻が自殺に追い込まれた。国の指導では、野鳥との接触をせぬよう、また消毒の徹底と、むしろ解放型鶏舎から密閉型養鶏場へと、ウィルスからの完全な遮断という方向へと誘導、指導されてきた。



今年は千葉県内でも鳥インフルエンザが 10 カ所の養鶏場に出て、460 万羽の鶏が地中に埋められた。正月返上で自衛隊と県職員総出で殺処分が行われた。これはスペイン風邪が鳥由来のため、新型インフルエンザによる人間へのパンデミックが起ころぬよう行われている処置だ。皮肉にも 1 カ所 100 万羽以上を飼育している完全密閉、消毒が徹底されている養鶏場を中心に被害が出ている。そして野鳥がウィルスに感染して死んだ例は千葉県内では 1 例も見つかっていない。あまり話題にはならなかったが、今年、実はロシアの養鶏場で従業員に鳥インフルエンザの感染が認められている。症状は 2、3 日、体の違和感があっただけだったらしい。ムムム。

私の養鶏場では消毒を行わない床で「ひよこ」を飼育している。歴代の鶏たちのウィルスを取り込み、自然に抗体を作り出すという仕組みだ。いわばウィルスとの共存。今年は例年より羽数を減らしたものの、2 月と 3 月に入れた「ひよこ」は愛らしく元気に地面を走り回っている。鶏の緑餌として今年は甘いソルゴーを栽培して食べさせようかと考えている。

畑ではビニールハウスに茄子とピーマンとミニトマトの種を 1 ポット 1 粒まきで育てている。「とげなし千両 2 号」という茄子の種は 1 袋に 13 粒しか入っていないが、葉が大きく強健な感じだ。昨年は猪にジャガイモはじめ散々にやられたので、抜かりなく電気を流して対策せねばと思っている。



毎年鶏に関してワクチンがどうか書いてきたが、人間のほうのワクチン接種が問題になってきた。土着のコロナウィルスが存在していた東アジアでは、集団免疫があり、コロナ感染率は欧米の百分の 1 という発表もある。国民の昨年の感染率 0.2% の感染症に対して、実験で 2 年後に猫がすべて死んでしまったという話もある遺伝子ワクチンが急きょ認可され、打たなければいけないのだろうか。

## 三咲頒布会！食のセミナー

4 月 10 日、三咲会場で、「食のセミナー」を開催いたしました。セミナーには 18 名の方が参加され、「自然農法ってどんな農法？」「免疫と食」のお話を熱心に聞かれていました。

●生物統計学の専門家 中村竜児さんの発表  
「免疫と食」について、抗生物質、農薬、食品添加物、砂糖が、ウィルスの侵入を防ぐ人間の免疫機能を損なうこと、農薬や肥料などの異物の入っていない無施肥無農薬栽培の作物は、コロナ禍において免疫力を維持するために大切であるとお話でした。



●農学博士 吉野香絵さん「野菜選びと健康」「幸せについて」

あるアンケートでは、幸福の条件の 1 位は「健康」とのことです。2 位は「経済的ゆとり」なのですが、面白いことに、経済的にゆとりのある方に「幸せですか？」と聞くと、必ずしもそうではないようです。しかし、健康な方に「幸せですか？」と聞くと、「幸せです」と答えるそうです。そして健康には「体」と「心」の健康があり、野菜不足が健康を害する一因であることが分かっています。そのことから、どのような野菜を選んだら良いか？ということとは、健康、ひいては幸せにつながる大事なことと言えるかもしれません。現在の農業では、病害虫を防除する「農薬」や、野菜の生育を促す「肥料」が必要不可欠ですが、それらは野菜を通して私たちの体に入ってきます。野菜選びには、その野菜が育った環境を知るべきではないでしょうか。安全安心で、栄養価の高い野菜の栽培方法として唯一、肥料も農薬も使わない自然のエネルギーによって栽培する農法が自然農法です。今までの数々の事例から、自然農法の野菜は人を健康にする力をいっぱい持っていると言っても間違いではありません。

今年は千葉の「ののファーム」のホウレン草が豊作で、セミナー参加者にはホウレン草で作ったケーキとほうじ茶を味わっていただきました。「市販のホウレン草は加工してもアクが強いが、このケーキは甘くてホウレン草の味が濃い」との感想や、飲食店に携わっている方は「このホウレン草、持っただけで分かる重みがあり、しっかりしている。市販のはすぐクタッとして葉がすぐぺたっとなるが、これはすごいよ」と感動されていました。

また、「植物性の有機肥料も良くないのか」「どうしても雑草は生えてきてしまうが、どうしたらよいか」など、実際に無施肥無農薬栽培を実施してみたいの質問や感想がありました。今後も様々なテーマから岡田茂吉師の無施肥無農薬栽培の魅力を知らせていきたいと思えます。(三咲頒布会スタッフ)



## 自然農法活動がんばる！

千葉県 小 5 年 藤元明以

昨年 9 月に、千葉県鎌ヶ谷市粟野の畑で、大根の種まきをしました。そして、帰りに大根の種をもらって帰りました。家に帰ってすぐうえようとしたら、庭の小さな畑には雑草がいっぱいはえていて、ぬくの力がたくさん必要だったり、土のかたまりや石があったので、土をやわらかくするのが大変でした。ただ一人で野菜を育てたことがなかったので、このような機会に感謝しました。大きく育ててほしいなと思っていましたが、その後、大根は白い部分が育たなくて、残念でした。今は、秋にうえたチューリップとパンジーが花を咲かせて、とてもきれいで毎日見るのが楽しみです。

今年の 3 月には、粟野の畑でじゃがいも苗うえをお手伝いしました。畑に入ると、家の畑とはぜんぜんちがいました。草もなくてきれいで、足をふみいれると、とてもやわらかく、ふわふわで、とても気持ちよかったです。係のお兄さんがうえるだけにしてくれていたので、楽しくうえることができて、感謝しました。しゅうかくが楽しみです。そのじゃがいもをつかったカレーを食べたいです。

鎌ヶ谷頒布会でお手伝いさせていただいたこともあります。気をつけたことは、作物名をきれいな字で書いたり、みんなに「これほしい」「これ買いたい」と思っていたらよいようにならべたりしました。買っていただけたときに、「買ってくれてうれしいな」と思いました。

学生会のお昼は自然のものばかりなので、ふつうに食べるものより、元気と力が出てくるので、食べるのが楽しみです。自然農法の作物を作ってくれた人、おいしいごはんを作ってくれる人に感謝しながら食べたいと思えます。

昨年 11 月の新穀感謝祭では、「生産者」「流通」「消費者」の 3 つがひとつになって初めて、自然農法は成立すると教えていただきました。3 つのことに少しでもふれることができてよかったです。これからは、育てた野菜をみんなに食べてもらいたいです。それと粟野の畑で苗うえをした話を友達にしたら、「行ってみたい」と言われたので、いつかさそえるようにがんばりたいです。



今年 4 月 11 日 大根種まき 右が藤元さん

## お知らせ (変更の可能性あります)

- ★ 自然農法頒布会 5 月 23 日(日) 鎌ヶ谷会場 11:00~15:00 (売切れ次第終了)
- ★ 自然農法勉強会 5 月 26 日(水) 午前の部 10:30~ / 午後の部 19:00~ (別院講堂)

お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: [naturefarming@torek.jp](mailto:naturefarming@torek.jp)  
TOREK 活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>